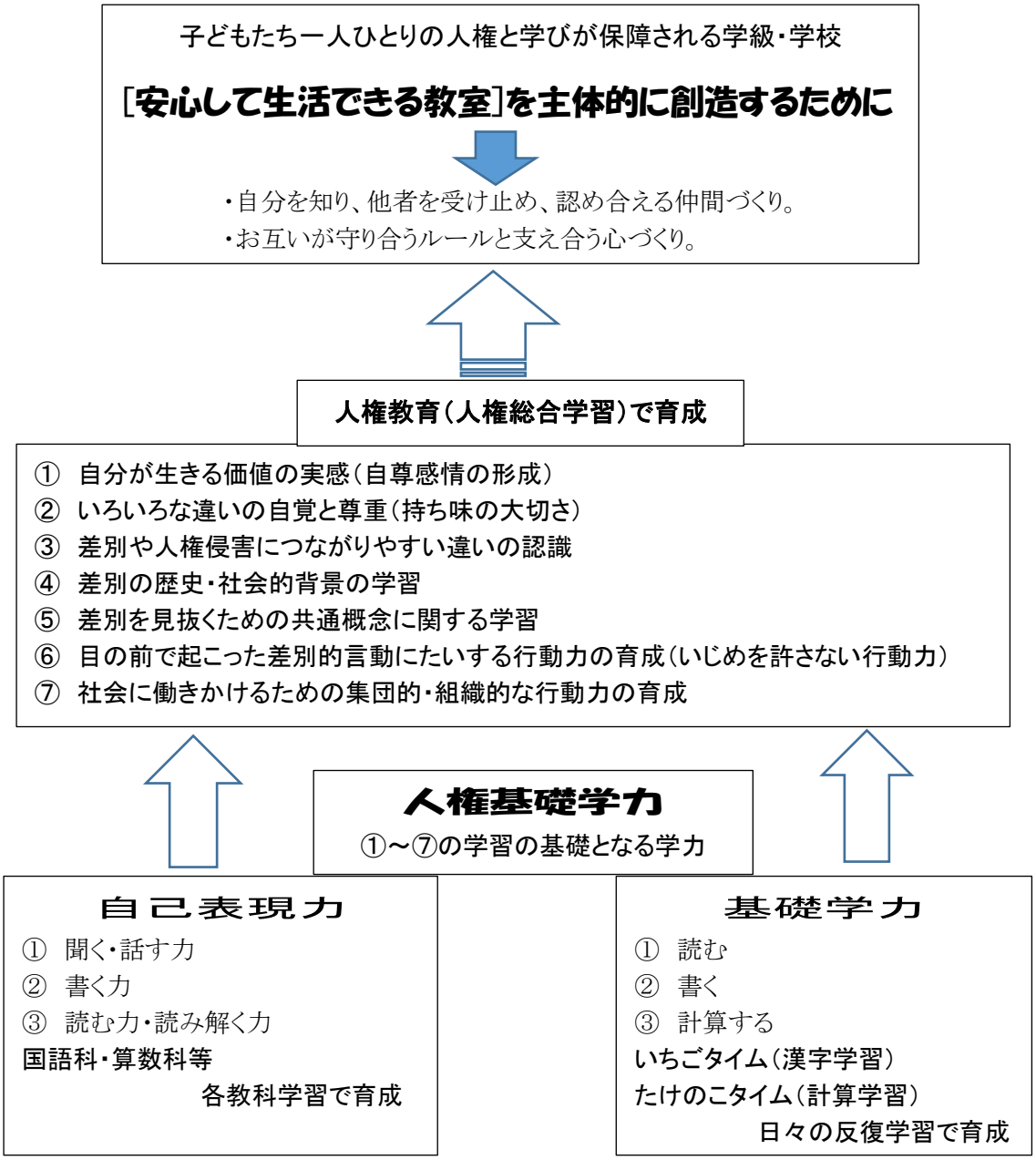
〈 自立の基礎を培う人権基礎学力の向上をめざして 〉

人権教育の視点で、児童の自立とは「偏見や差別、いじめを許さず、たくましく生き抜く強さと温かさを持った子ども」と考えている。その自立のためには、自らが課題意識を持ち、主体的に考える子に育つことが大事である。

しかし、自らが課題意識を持ち、主体的に考えていく子どもを育てるためには、どのような力を具体的に育んでいく必要があるのか。また、その学びをともに作り上げていく集団は、どのような集団であればよいのか。それらを、人権教育の視点で整理したのが［人権基礎学力］である。



［人権基礎学力］とは、人権教育（人権総合学習）を進めるうえで身に付けさせたい学力であり、子どもたちの人権感覚や人権意識を育む上でも基礎となる学力である。子どもたちの学力向上には、学びの下支えとなっている、学習環境や仲間づくり、授業づくりが大事である。それらをしっかりと支えていくものが人権教育（人権総合学習）であり、そのためにも、［人権基礎学力］が非常に重要である。